

第63回建築士会全国大会「広島大会」

ご挨拶



公益社団法人 日本建築士会連合会
会長 近角 真一

皆様、第63回建築士会全国大会「広島大会」へようこそ、お出で下さいました。新型コロナウイルス感染症拡大への警戒から、急遽、広島から東京へ会場を移し、対面する人数を制限させていただき、移動による感染リスクを避けるためのリモート接続を用意することと致しました。全国のできるだけ多くの建築士会会員に音声と映像を通して「広島大会」を体験いただきたいと願っております。

関係省庁、関係団体の方々からはお祝い、励ましのお言葉を頂戴致し、また多くご臨席も賜りましたこと、まことに光栄に存じます。

広島県建築士会の皆様には記念対談並びに本式典の進行をお願いしております。井本会長には「元気じゃけん！ひろしま 新しい時代へ“ものがたり”を繋ごう」と、高らかに大会宣言をいただく予定になっております。

大会宣言にある“ものがたり”とは、広島の風土が育んだ美しい建築・町並の物語、悲惨極まりない原爆投下による破壊、その後の都市の復活と発展の物語、歴史ある建築物の修復と再生の物語、そして今まさに進行途上で克服できていないコロナ禍と豪雨災害であります。新しい時代とは、地球規模で広がりを見せるこうした災禍にひるまず、国を超えて心ひとつに取り組み、克服を成し遂げたあと、立ち現れる新しい時代のことです。

パンデミックから人々の命と暮らしを守る

コロナの感染は実は空気感染であるという学説について盛んに報道されるようになってきました。コロナ退治にはワクチンや治療薬といった病理学的な対策が必要ですが、人の日常生活を取り巻く空気環境からウィルスを排除する方策を徹底することがより重要で、そのためには空気環境の制御の専門家である建築士の技術力が必要です。建築士会は今後とも換気アドバイス講習に一層力を入れて取り組んでいきたいと思っております。

頻発し激甚化する自然災害から人々の命と暮らしを守る

地球規模の気候変動がもたらす風水害が世界各地で猛威を振るっています。建築士会は被災後の建物復旧・再建の相談業務だけでなく、災害が起きる前の事前防災として、その土地・建物は、どれだけのグレードの風水害に耐えられるのかを診断する技術力を高める講習を始めます。診断結果によっては、その地から移転する選択肢も掲げ、集団移転事業の可能性を探ることも視野に入れた技術力が必要となります。

脱炭素の建築を目指し、世界規模の災禍の発生を遅延・軽減させる

コロナと異常気象との関係は依然不明ですが、過去に猛威を振るった感染症の多くは異常気象に起因する生態系の乱れとの関連が指摘されています。何れにしても地球を包む大気の異常が我々人間社会に大きな災禍をもたらしているのは明らかなので CO₂ の排出抑制に国際協調するのは発生的主要原因国の一つである日本の義務です。

脱炭素への取り組みは今年の 3 月に今後 10 年の国交省の住生活基本計画として盛り込まれたものです。建築士会としては日常の建築実践の場で発注者の意識転換を図る活動に取り組む必要があります。

以上のことは、本大会のアピールに盛り込まれる予定の、建築士の技術力を高めるための行動として連合会に課せられた責務として受けとめさせて頂いております。

ご挨拶の結びにあたって、コロナの猛威で広島での現地開催を断念された広島士会の皆様が、その落胆を乗り越え東京開催に向けて急ぎご協力をいただきましたこと、そして連合会に結集された各委員会各部会の会員の皆様が、2 年がかりとなった大会宣言をしっかりと受け止め、リモートにめげず、所定の成果を上げるべくご努力をされたことに、深く感謝申し上げます。最後になりますが本日ここにお集まりの皆様のご健勝とご繁栄を祈念いたしましてご挨拶とさせていただきます。